

III 研究の成果と課題

2年間の研究や取組における成果と課題

本校が2年間取り組んできた道徳科研究において、道徳教育に対する生徒の実態を把握し、変容を考察する手立てとして、生徒への道徳アンケートを活用した。

生徒への道徳アンケートの結果から見えてきた本校生徒の実態として、以下のことが挙げられる。

- ・道徳科の授業を肯定的にとらえ、前向きに取り組んでいる生徒が多い。
- ・どの学年においても級友と交流し、相手の考えをよく聞きながら自分の考えを深めようと取り組んでいる。
- ・自分事として考えることが増えてきた。

- ・挙手して発表することに対し消極的な生徒もいるが、自分の考えをしっかり持ち、文章で表現することができている。

- ・全体的にアンケート項目の数値は高いが、普段の学校生活の中で自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任を持つことができない生徒もいる。

上記の生徒の実態を踏まえ、本研究の成果と課題を下記の2つの視点から考察していきたいと思う。

- (1) 道徳科教育に関する生徒アンケート(令和5年度1月と令和6年度6月実施)からの考察(全校生徒の変容)
- (2) 道徳科教育に関する教職員アンケート(令和5年度1月と令和6年度6月実施)からの考察(教職員の変容)

(1) 生徒への道徳アンケートからの考察

令和6年度生徒への道徳アンケート結果

令和6年6月28日実施

	1年	2年	3年	学校
回答数	34	31	33	98

問1 道徳科の勉強はためになると思う。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	25	25	28	78	80%
2 どちらかといえば思う	8	5	5	18	18%
3 どちらかといえば思わない	0	0	0	0	0%
4 思わない	1	1	0	2	2%

98

問2 道徳科では、これまでの自分の経験と比べて考えること等を通して、自分とのかかわりで考えている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	21	17	21	59	60%
2 どちらかといえば思う	9	12	11	32	33%
3 どちらかといえば思わない	3	2	1	6	6%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問3 道徳科では、人や状況によっていろいろな感じ方や考え方に気づき、様々な角度から自分の考えを深めようとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	22	21	23	66	67%
2 どちらかといえば思う	8	9	10	27	28%
3 どちらかといえば思わない	3	1	0	4	4%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問4 道徳科では、自己や社会のために、よりよく生きていこうとする考えを深めている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	24	22	24	70	71%
2 どちらかといえば思う	6	8	9	23	23%
3 どちらかといえば思わない	3	1	0	4	4%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問5 道徳科で学習したことを、家族と話したことがある。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	13	10	8	31	31%
2 どちらかといえば思う	4	6	4	14	14%
3 どちらかといえば思わない	6	5	8	19	19%
4 思わない	11	10	13	34	34%

98

問6 自ら考えて行動し、結果に責任をもとうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	20	20	17	57	58%
2 どちらかといえば思う	11	8	14	33	34%
3 どちらかといえば思わない	2	3	2	7	7%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問7 節度を守り、節制に心がけ、望ましい生活習慣を身につけようとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	18	17	20	55	56%
2 どちらかといえば思う	14	10	11	35	36%
3 どちらかといえば思わない	1	3	2	6	6%
4 思わない	1	1	0	2	2%

98

問8 自分の長所と短所を知り、短所を直し、長所をのびそうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	19	19	21	59	60%
2 どちらかといえば思う	10	8	11	29	30%
3 どちらかといえば思わない	4	3	0	7	7%
4 思わない	1	1	1	3	3%

92

問9 より高い目標に向かって、あきらめずに取り組もうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	22	19	21	62	63%
2 どちらかといえば思う	9	7	10	26	27%
3 どちらかといえば思わない	2	5	2	9	9%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問10 疑問に思ったことは納得いくまで調べ、新しいものを生みだそうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	18	14	15	47	48%
2 どちらかといえば思う	10	9	12	31	32%
3 どちらかといえば思わない	3	8	6	17	17%
4 思わない	3	0	0	3	3%

98

問11 だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	21	20	23	64	65%
2 どちらかといえば思う	9	10	9	28	29%
3 どちらかといえば思わない	3	1	1	5	5%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問12 自分の生活が、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、自分ができるところをしようとする。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	22	22	22	66	67%
2 どちらかといえば思う	9	9	11	29	30%
3 どちらかといえば思わない	1	0	0	1	1%
4 思わない	2	0	0	2	2%

98

問13 あいさつなど、時と場を考えた言動を心がけている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	20	21	22	63	64%
2 どちらかといえば思う	10	8	9	27	28%
3 どちらかといえば思わない	3	1	2	6	6%
4 思わない	1	1	0	2	2%

98

問14 友達と互いに信頼し、高め合おうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	27	24	20	71	73%
2 どちらかといえば思う	4	7	12	23	23%
3 どちらかといえば思わない	1	0	1	2	2%
4 思わない	2	0	0	2	2%

98

問15 自分とちがう考えや意見を大切にし、謙虚に学び、自分を高めようとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	21	19	20	60	61%
2 どちらかといえば思う	8	11	11	30	31%
3 どちらかといえば思わない	3	1	2	6	6%
4 思わない	2	0	0	2	2%

98

問16 社会のきまりの意義を理解し、進んで守ろうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	23	18	21	62	63%
2 どちらかといえば思う	7	11	11	29	30%
3 どちらかといえば思わない	2	2	1	5	5%
4 思わない	2	0	0	2	2%

92

問17 差別や偏見をもつことなく、誰に対しても公平に接するようになっている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	18	22	20	60	61%
2 どちらかといえば思う	13	8	12	33	34%
3 どちらかといえば思わない	1	1	1	3	3%
4 思わない	2	0	0	2	2%

98

問18 社会の一員としてよりよい社会を実現するために行動しようとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	19	17	18	54	55%
2 どちらかといえば思う	11	13	14	38	39%
3 どちらかといえば思わない	3	1	1	5	5%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問19 働くことについて理解し、自分の役割や将来の生き方について考えようとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	19	20	19	58	59%
2 どちらかといえば思う	10	9	12	31	32%
3 どちらかといえば思わない	1	2	2	5	5%
4 思わない	4	0	0	4	4%

98

問20 家族の一員として、自分がすべきことに積極的に取り組もうとしている。

	1年	2年	3年	全体	
1 思う	18	17	14	49	50%
2 どちらかといえば思う	12	11	16	39	40%
3 どちらかといえば思わない	3	3	3	9	9%
4 思わない	1	0	0	1	1%

98

問21 学級や学校などの集団の一員として、自分の役割と責任を果たそうとしている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	21	22	15	58	59%	95%
2 どちらかといえば思う	9	8	18	35	36%	
3 どちらかといえば思わない	2	0	0	2	2%	5%
4 思わない	2	1	0	3	3%	

問22 地域社会の一員として、自分の町と積極的に関わり、自分ができることをしようとしている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	17	17	11	45	46%	84%
2 どちらかといえば思う	13	9	15	37	38%	
3 どちらかといえば思わない	3	4	6	13	13%	16%
4 思わない	1	1	1	3	3%	

問23 地域を大切にすることについて、自分のこととして考えている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	20	19	15	54	55%	86%
2 どちらかといえば思う	9	6	15	30	31%	
3 どちらかといえば思わない	3	5	2	10	10%	14%
4 思わない	2	1	1	4	4%	

問24 地域社会の一員として、自分の町を大切にすることについて、多様な面から考えている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	18	18	13	49	50%	81%
2 どちらかといえば思う	10	7	13	30	31%	
3 どちらかといえば思わない	4	5	7	16	16%	19%
4 思わない	2	1	0	3	3%	

問25 日本の伝統と文化を大切にしようとしている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	20	18	16	54	55%	88%
2 どちらかといえば思う	9	11	12	32	33%	
3 どちらかといえば思わない	3	0	4	7	7%	12%
4 思わない	2	2	1	5	5%	

問26 他国の人々や文化について知り、尊重しようとしている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	19	20	16	55	56%	90%
2 どちらかといえば思う	8	9	16	33	34%	
3 どちらかといえば思わない	5	1	1	7	7%	10%
4 思わない	2	1	0	3	3%	

問27 命はかけがえのないものだと思う。(自分・他人・動物・植物)

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	29	29	25	83	85%	99%
2 どちらかといえば思う	4	2	8	14	14%	
3 どちらかといえば思わない	1	0	0	1	1%	1%
4 思わない	0	0	0	0	0%	

問28 自然のすばらしさを感じ、大切にしたいと思う。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	28	27	25	80	82%	100%
2 どちらかといえば思う	6	4	8	18	18%	
3 どちらかといえば思わない	0	0	0	0	0%	0%
4 思わない	0	0	0	0	0%	

問29 美しいものに感動したり、人間の力を超えたものに対して偉大だと感じたりする。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	24	25	21	70	71%	97%
2 どちらかといえば思う	9	4	12	25	26%	
3 どちらかといえば思わない	0	2	0	2	2%	3%
4 思わない	1	0	0	1	1%	

問30 自分の弱さを知り、それを克服しようとする生き方をしようとしている。

	1年	2年	3年	全体		
1 思う	20	22	18	60	61%	95%
2 どちらかといえば思う	13	7	13	33	34%	
3 どちらかといえば思わない	0	1	2	3	3%	5%
4 思わない	1	1	0	2	2%	

本校では、道徳アンケートを令和5年度から計3回実施した。ここでは令和5年度と令和6年度の結果から検証した。

設問① 道徳科の勉強はためになると思う。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	80%	19%	1%	0%
	99%		1%	
令和6年度	80%	18%	0%	2%
	98%		2%	

設問⑥ 自ら考えて行動し、結果に責任をもとうとしている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	46%	52%	2%	0%
	98%		2%	
令和6年度	58%	34%	7%	1%
	92%		8%	

令和6年度6月のアンケートでは、30の質問項目のうち、24の質問項目において、回答が「1 思う」、「2 どちらかといえば思う」という肯定的な回答が90%を超えており、生徒は全体的に道徳科の授業を肯定的にとらえ、前向きに取り組んでいることが伺える。特に令和6年度の設問①「道徳科の勉強はためになると思う」では、高い数値の割合で肯定的な回答をしている。令和5年度に比べて令和6年度の方が数値は下回るものもあるが、多くの質問において肯定的な回答である。設問⑥の回答にもあるように、授業後の生徒の感想の内容からも、道徳科の授業で学んだことをさらに自らの行動に置き換え、責任を持った行動をしようと考えられている様子が伺える。

設問⑪ だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとしている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	61%	35%	4%	0%
	96%		4%	
令和6年度	65%	29%	5%	1%
	94%		6%	

設問⑭ 友達と互いに信頼し、高め合おうとしている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	65%	32%	3%	0%
	97%		3%	
令和6年度	73%	23%	2%	2%
	96%		4%	

設問⑰ 差別や偏見をもつことなく、誰に対しても公平に接するようにしている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	59%	37%	4%	0%
	96%		4%	
令和6年度	61%	34%	3%	2%
	95%		5%	

設問⑪⑭⑰に対しても、肯定的な回答が多い。本校生徒は、生徒会活動や体育祭、合唱大会などで、上級生が下級生によい見本を示し、活発に活動する機会が多い。入学以来、学年・学級での活動において、上級生の活躍を手本にしながら、それぞれの生徒が自分たちができることを見つけ、前向きに取り組むことができている。時には考え方の違いから意見がぶつかり合うこともあるが、様々な取組を3年間積み上げている。級友のことを考えた行動ができたり、協力してお互いを高めようとしたりする姿勢は、道徳科の授業で身に付けた「他者に対する思いやりの心」や「公正・公平な考え」が様々な場面で活かされているのではないかと考える。

設問⑳ 地域社会の一員として、自分の町と積極的に関り、自分ができるところをしようとしている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	33%	48%	16%	3%
	81%		19%	
令和6年度	46%	38%	13%	3%
	84%		16%	

設問㉑ 地域を大切にすることについて、自分のこととして考えている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	38%	45%	16%	1%
	83%		17%	
令和6年度	55%	31%	10%	4%
	86%		14%	

設問㉒ 地域社会の一員として、自分の町を大切にすることについて、多様な面から考えている。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	34%	50%	14%	2%
	84%		16%	
令和6年度	50%	31%	16%	3%
	81%		19%	

地域と自分との関わり等についての設問⑳㉓㉔において、「3 どちらかといえば思わない」「4 思わない」という否定的な回答が他の設問に比べてやや多い結果となっている。本校では総合的な学習の時間や学級活動において、地域との連携を重視した取り組みを行っているが、アンケート結果に反映されていない部分がある。地域学習や地域での職場体験、社会福祉協議会と連携した人権教育等、現在行われている活動が道徳教育と教科横断的に取り組んでいけるよう指導する側も生徒も意識していきたい。道徳科の授業だけでなく、学校教育活動全体にわたりこれらのことを意識して指導し、生徒の道徳性の向上につなげていく必要があると考える。

設問㉕ 道徳科で学習したことを、家族と話したことがある。

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
令和5年度	18%	15%	30%	37%
	33%		67%	
令和6年度	32%	14%	19%	35%
	46%		54%	

令和5年度、6年度ともに否定的な回答が肯定的な回答を上回るのが設問㉕「道徳科で学習したことを、家族と話したことがある」である。

中学生は思春期に入り、小学生の頃と比べて家族との会話も減り、道徳科の授業に関する会話だけでなく、学校での様子を家族に話すことが少なくなってきているのではないかと考える。この結果を踏まえて、本校では学年通信に加え、道徳通信を発行しました。道徳通信では実施した授業内容、道徳的価値、生徒の感想等を掲載し、学校での様子を保護者に伝えている。令和5年度に比べて令和6年度では、肯定的な回答が13ポイント上回る結果となっており、少しずつではあるが、取り組みの成果が表れてきている。また、授業中にワークシートへ自分の考えを毎時間記入しているが、それを共有する時間は限られているので、共有できていなかった級友の考え方を知る方法として道徳通信を活用している。自分の考えを深めたり、広げたりすることにもつながり、「家庭での会話のきっかけになれば」と考える。今後のアンケート結果にも表れてくるのではないかと期待する。

3 学年 道徳通信 3号 (10/2) 【加筆・修正あり】

「特別な教科 道徳」の学習をしました。

【教材名】「受けつがれる思い」

【よりよい学校生活、集団生活の充実】

【教材内容】主人公たちは、中学校に入学し、広いグラウンドでサッカーをしたいという気持ちからサッカー部をつくる活動を始めました。うまくいかないサッカー部の活動の中で、友達の言葉や他校との試合を通して、サッカー部の活動の意義や自分の役割に気づいた主人公たちが、活動を後輩たちに託そうとする気持ちを共感的に捉えて、よりよい学校生活や校風を築こうとする意欲や態度について考えることができる教材です。



～生徒の感想～「受けつがれる思い」

◆伝統は、「人々の思いを受け継いで創られていく」と思いました。一人の気持ちだけでなく、たくさんの人々の思いが一つになって、次世代に受け継がれていくと思います。私は、試合等はなかったけど、「私達の部活動も何かしら受けついでもらったのではないかと」思っています。

◆「先人達の思いで築きあげたことが、現代の人々へと継承されることで伝統というものが生まれるのだ」と思いました。これからは、もっと伝統の「物」や「こと」などを知って守っていきたいです。

◆昔の人や先輩が頑張ってきたことを受け継いでいき、また、後輩たちに教えていく。「伝統は、先に生きた人の努力なんだ」と思いました。この授業を通して、「受け継いできたことを大切に、後輩に受けついでいこう」と思いました。

◆伝統は、色々な人が受け継いで創られていくことが分かった。「だから、下津二中の体育祭の行進もめっちゃ疲れるけど受け継いでいこう」と思った。

◆「伝統は、誰かが大変な思いをして創ったものだから、簡単に継ぐのを止めてはいけません」と思いました。この学校の伝統も、この学校がもっとよい学校になってほしいという先輩の思いからきていると思うので、継いでいきたいし、下津二中がなくなっても継いでいってほしいです。

【教材名】「高く遠い夢」【希望と勇気、克己（自分の感情・欲望・邪念などにうちかつこと）と強い意志】

【教材内容】本教材は、世界最高峰のエベレスト登頂を目指す作者が、さまざまな努力や工夫を重ねることで、自らを目標に近づける喜びやおもしろさを感じながら、目標を達成した充実感がつづられています。作者の経験に共感して、その心情や行動の在り方を生徒に深く考えさせることで、目標の実現のために困難に屈しない粘り強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度について考えを深めることができる教材です。



～生徒の感想～「高く遠い夢」

◆失敗しても、そこから立ち直る策を作って挑戦していったら、おのずと高い目標が現れ続けると思う。

◆少しずつ少しずつ目標を立てていき、それに失敗しても失敗から学び、少しずつ「できる」を増やしていく。「失敗したときにどうするか」「どのようにその目標を、どういう意図をもってやるか」など、深くしっかりと計画を立てておくモチベーションが大切なので、小さい目標を達成し、その喜びで気持ちを保っておく。

◆「目標がないと人は目指すものがなくなって努力をしなくなるから、目標を持つことが大事なかな」と僕は考えた。

◆自分が立てた高い目標を達成するには、「地道なことを繰り返し、少しずつ目標に近づいていくことが大切だ」ということが学べた。そして、高い目標を達成する目前で諦めたり、心が折れてしまいうようなことがあったりしても、「今までの地道なことの繰り返しや練習を無駄にせず、達成するまで継続することが大切だ」ということも知れた。

◆目標を立てることは大切だと思うけれど、それだけでなく、「目標を達成するために毎日地味なことでも努力をし続け、後悔しないようにすることが大切だ」と思いました。また、「三浦さんのように思うようにいかず、先が思いやられるようなことがあっても決して諦めずに目標に向かって努力をしていきたいな」と思いました。

(2) 下津第二中学校教職員アンケートからの考察

下津第二中学校教職員アンケートは、教職員の道徳科への意識や指導の変容について知ることを目的として、令和5年度と令和6年度に1回ずつ実施した。

設問① 研究を始める前に比べて、道徳の授業を好きになりましたか。

	とても思う	やや思う	変わらない	やや嫌いになった	嫌いになった
令和5年度	9%	58%	8%	25%	0%
	67%		8%	25%	
令和6年度	9%	82%	9%	0%	0%
	91%		9%	0%	

設問② 研究を始める前に比べて、道徳の授業が楽しくなりましたか。

	とても楽しかった	やや楽しかった	変わらない	やや楽しくなくなった	楽しくなくなった
令和5年度	17%	33%	33%	9%	8%
	50%		33%	17%	
令和6年度	9%	73%	18%	0%	0%
	82%		18%	0%	

設問①②では、道徳科の授業に対する意識の変化が見られる。これは、道徳科の授業づくりにおいて基本的な授業の流れを明確にし、教員の切り返しの発問や問い返しの発問に対して、生徒がより深く考える姿を見取ることによって教職員の自信につながり、授業に対して前向きになったと考えられる。また、授業展開を考える際には、内容項目に応じたねらいやめあての設定、中心発問について教職員同士での協議が活発に行われるようになり、教職員全員が本研究主題である「夢や希望を持ち、よりよく生きようとする心を育てる道徳教育」に取り組むことができていると伺える。

設問③ 道徳の授業力は、研究を始める前に比べて、向上したと思いますか。

	とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない
令和5年度	8%	67%	17%	8%	0%	0%
	75%		17%	8%		0%
令和6年度	19%	45%	9%	18%	0%	9%
	64%		9%	18%		9%

設問③では、「とても思う」と回答した教員は増えたが、全体的に令和5年度よりも低下していると読み取れる。これは、生徒の発達段階に応じた目標設定を意識するからこそ、より授業の展開や発問の難しさを感じていると考えられる。

設問④ 研究を始める前に比べて、ファシリテーター役を担えていると思いますか。

	とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない
令和5年度	0%	50%	25%	17%	0%	8%
	50%		25%	17%		8%
令和6年度	10%	45%	27%	18%	0%	0%
	55%		27%	18%		0%

設問④では、教師主導で授業を展開して道徳的価値に誘導するのではなく、生徒が互いに話し合いながら道徳的価値に迫ることができるようにすること、めあてから離れず生徒の考えから「なぜ?」「どうして?」と質問しながらより深く考えさせること、教師が喋りすぎないことを心がけていると伺える。

設問⑤ 道徳の授業では、研究を始める前に比べて、生徒の発言や発表でねらい（第三層：道徳的価値レベル）に迫ることができていると思いますか。

	とても思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	全く思わない	わからない
令和5年度	0%	50%	25%	8%	0%	17%
	50%		25%	8%		17%
令和6年度	0%	37%	45%	18%	0%	0%
	37%		45%	18%		0%

設問⑤については、授業の中で、ダイヤの原石と考えられる発言を上手く見つけ、そこから考えを深めるための研究をする上で、生徒の発言を活用して道徳的価値レベルに迫ることの難しさを感じた。

令和6年度のアンケート結果では、令和5年度に比べて、低い割合の項目もあるが、道徳科の授業終了時に職員室で教職員同士が反省や振り返りを行う時間が増えた。これは、ねらいに迫ることで道徳科の授業をよりよいものにしたという気持ちの表れであると確信している。

成果：

- 「目指すべき授業の流れ」の共通理解をすることができた。これには、海南市教育委員会が主催する Manabi Up 研修講座の第一回研修を通じて、下津第二中学校の教員全員が学習した。さらに、先進校の愛知県みよし市立北中学校及び、南中学校での視察を通じて授業を参観し、研究協議に参加した。これにより、学習指導要領解説に基づいた発達段階に応じたねらいの設定や授業の中心発問、生徒の発言や発表に対する重要性を共有し、道徳科の授業改善に向けた共通の方針を確立した。
- 授業計画と研究協議に基づいた授業改善を実施し、共通理解を深めた。教師は、研究授業を行う際にプランニングシートを活用し、互いの授業を参観して授業内容や指導方法、「道徳的価値をみとるポイント(P.18参照)」について協議した。これにより、授業の質を向上させ、目指すべき授業のあり方に対する理解を深めた。
- 生徒の話合い活動を充実させるための授業実践を行った。教師は、座席配置を工夫し、「コの字型」を採用するなど、生徒同士の意見交換を促進する環境を整えた。さらに、教師は生徒の議論を深めるためファシリテーターとして発問や問い返し技術を磨き、生徒がより多角的な視点から議論ができる支援をすることができた。
- 各学年で道徳通信を発行し、生徒同士での情報共有と保護者への情報発信を行った。授業中、自分の考えを毎時間記入しているが、それを共有する時間は限られているので、共有できていなかった級友の考え方を知る手段として道徳通信を活用した。級友の考え方をすることで道徳的価値を深めたり、広げたりするだけでなく、家庭での会話のきっかけとなり、「保護者から見た子どもの変容に気づくことにもつながるのでは」と考えた。また、保護者には「学校教育で力を入れてほしい、身につけてほしいと考える項目」についてアンケートをとった。その中で多かった内容項目は、A-(1)【自主、自律、自由と責任】「自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする」とA-(4)【希望と勇気、克己と強い意志】「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする」だった。保護者が身につけてほしいと考える道徳的価値と学校教育活動全体の中で高めたい道徳的価値が一致していることが分かった。今後も保護者と連携をして道徳的価値を深める取組を継続していきたい。
- 研究協力地域の中学校（下津第一中学校）にアンケートの実施を依頼し、他校との共通点や相違点を見出し、研究に活かすための材料とすることができた。また、研究協力校（下津管内の小中学校）に研究授業・協議の参加依頼をし、種別をこえた意見交流をすることができた。「生徒の発達段階に応じた目標設定になっているか」「中学生だからこういうところまで議論し、深めることができるのではないか」などといった忌憚のない意見を聞くことにより、協議を深めることができた。

課題：

1 道徳的価値を深める道徳科の授業及び、指導改善の必要性。

生徒が小学校段階で理解している分かりきったことを言わせる、書かせる授業にならないよう、教師が生徒の発達段階に応じた目標設定を立てる必要がある。また、「生徒が主役となる道徳科の授業」を目指すため、教師はしゃべりすぎず、道徳的価値に迫るためのファシリテーターに徹しながら授業を展開することが求められる。今後も年間1人2回以上の公開授業をすることで実践回数を増やし、コンテンツを積み上げていきたい。

また、プリントを見ずに自分の言葉で考えを伝える授業形態を実施している。これは、プリントを見ながら読むだけでなく、自分の言葉で相手に伝えたり、質問したり、意見交流をしながら議論を深めることをねらいとしている。しかし、プリントを見ずに自分の考えを伝えることだけにとどまり、生徒同士がやりとりをすることで考えが深まるまでには達していないので、取り組みを継続する必要がある。

2 生徒の実態に応じた道徳教育のカリキュラムマネジメントの課題。

学校教育目標の実現に向けて、道徳科、道徳教育、特別活動（行事等）、総合的な学習の時間、地域を関連付けて取り組む計画（別業）を作成した。やはり道徳科の授業だけでなく、学校教育活動全体を通じて道徳性の向上につなげていく必要があると考えたからである。現在行われている活動が道徳教育と教科横断的に取り組んでいけるよう、指導する側も生徒も関連性をより意識して取り組むことが求められる。

3 ICT を活用した道徳科の授業実践の研究不足。

ICT を活用した生徒参加型の授業環境を構築するため、授業の中で ICT を活用するタイミングなど効果的な活用方法を探求する必要がある。生徒が自分の考えを表現し、伝えるツールとして利用することで、より深く考え議論できる授業環境が整備されると期待できる。

本校の生徒の中には「道徳科の授業を楽しみにしている」と声にする生徒もおり、授業中に自分の考えを自分の言葉でしっかり発表できる場面も多い。また、授業中に積極的に発言することは少なくとも、自分の考えを持ち、ワークシートにはしっかり記入できている生徒が多い。これらのことから、生徒は他者の意見を聞きながら自分の考えを深めようとする姿勢で前向きに学習に向うことができていると考えられる。道徳科の指導にあたっては、学級担任だけでなく学年担当全員が授業を行い、共通して取り組むことを理解したうえで、誰が授業をしても同じスタンスで授業ができている。今回のアンケートの結果から分かるように、全教職員が同じ方向性を持ちながら授業研究を深め、生徒に向かう真剣な姿勢が伝わっているのではないかと考えられる。

人は、支え合って生きていくことにおいて、どんな困難にも立ち向かい、困難を乗り越えることができる。人が困っていたら助けに行き、自分が困っている仲間へ助けを求めるといことが、人を成長させるための糧になるから、どんな些細な困難でも、みんなで仲間と解決していく仲間と喜びを共有しようとしている。

私は、高い目標を持ち続けるためには、何かに挑戦しようとする気持ち、あきらめない心が必要だと思いました。理由は、挑戦しようとする気持ちがないと高い目標は持てない、あきらめない心がないと途中でやめてしまうからです。また、私は失敗しないようにしようとして、必ず挑戦しようとするので、失敗した時のことを考えてしっかり準備しておくことも大切にしていきます。

*生徒のワークシートより

このように2年間の研究を通して、様々な成果を得ることができたのと同時に課題も明らかになった。道徳的価値レベルに迫ることができるよう、みんなで議論し、考え合うことができる道徳科の授業を教職員全員で目指し、道徳科における下津第二中学校スタイルを確かなものにするために研究を継続していきたい。